

保育実技講習(仮称)の骨格(案)について

保育実技講習(仮称)の考え方(案)

1 第2回保育士養成課程等検討会における議論の論点及び課題

○保育実技講習(仮称)の実施時期について

- 地域限定保育士試験の受験申請前に受講することとするか、又は地域限定保育士試験の筆記試験合格後に受講することとするか。

○保育実技講習(仮称)の実施方法について

- 「講習のみ」と「講習及び実習」の2通りとするか、「講習のみ」又は「講習及び実習」のいずれかのみとするか。

○保育実技講習(仮称)のカリキュラムについて

- 「講習又は実習」の場合において、「保育の表現技術」の3領域(音楽、造形、言語)のうち2領域を選択とするのではなく、3領域全てを実施することとするか。

○実習の取扱いについて

- 「見学実習」では誤解が生じるため、実習の呼び方について工夫すべきではないか。
- 実習先の確保等の問題から、実習は実施しない、又は1日のみの実習としてはどうか。
- 実習を行う場合は、ガイドライン等を定める必要があるのではないか。
- 実習先は、保育所に限らず他の児童福祉施設も含めるべき。
- 実習内容は、表現技術のみとするか、又は保育内容全体を含めるべきか。
- 実習時における実施機関の関わり(実習立ち合い、評価等に関する実習先との連携・調整等)をどうするか。

2 上記1を踏まえた、保育実技講習(仮称)の骨格(案)

(1) 保育実技講習(仮称)の時間数

- ・30時間程度(4～5日間)とする。

※ 保育士養成課程の「保育の表現技術」の修得単位は4単位となっている。また、当該科目は「身体表現」、「音楽表現」、「造形表現」、「言語表現」の4領域で構成されており、保育士試験の実技試験では、このうち「身体表現」を除く3領域が出題範囲となっている。

このため、保育実技講習(仮称)では、「保育の表現技術」が4単位(実質45時間)であることを踏まえ、概ね3/4程度の時間数とした。

- ・保育実技講習(仮称)を地域限定保育士試験の筆記試験合格後に受講することとする場合は、27時間程度(総論に関する科目を除いた時間数)とする。

(2) 保育実技講習(仮称)の内容

- ① 「講習及び実習」により実施する。
- ② 実習は、「保育実践見学実習(仮称)」として表現技術と保育の流れに関する内容を含むものとし、1日程度(午前保育開始時から6時間程度)で行うこととする。
- ③ 実習に当たっては、事前にオリエンテーションを行うとともに、実習後、その内容を振り返る時間を設ける。
- ④ 実習は、原則として実習を適切に行える保育所その他の児童福祉施設において行うこととする。

⑤ 実習の具体的な内容及び詳細については、別途、要領を策定するものとする。

※ 要領に盛り込む主な内容

- ・ 実習施設の選定方法
- ・ 実施機関及び実習施設における保育実践見学実習の事前準備
- ・ 保育実践見学実習当日の対応
- ・ 実習後の対応 など

⑥ 保育実技講習(仮称)を実施する機関において、やむを得ない事情等により実習を行うことが困難な場合は、実習に代えて、映像等を活用した演習により行うことも可能とする。ただし、実習で学ぶべき内容を網羅して実施することを条件とする。

⑦ 原則として、全ての時間の出席をもって講習を修了したものとする。ただし、受講態度が不適切な場合は、修了としない。

また、修了としない場合の判断は、保育実技講習(仮称)を実施する機関が適正に評価を行うものとする。

なお、評価方法の具体的な内容及び詳細については、別途、評価基準を策定するものとする。

※ 評価基準に盛り込む主な内容

- ・ 評価の指標
- ・ 評価方法
- ・ 評価の通知方法 など

(3) 保育実技講習(仮称)を実施する機関

保育実技講習(仮称)を実施する旨を予め都道府県に届出した指定保育士養成施設又は都道府県が認める機関が実施する。

(4) 実技試験が免除される期間

保育実技講習(仮称)を修了した者は、その修了した日後引き続いて行われる地域限定保育士試験の3回(3年と同義)の実技試験を免除する。

保育実技講習(仮称)のカリキュラム(案)

(1) 保育実技講習(仮称)を地域限定保育士試験の受験申請までに受けることとした場合
又は地域限定保育士試験の筆記試験合格の有無に係らず受けることとした場合

科目名	区分	時間	ねらい	教育に含むべき事項
保育の表現技術 (総論)	講義	180分 (2コマ)	保育現場における表現についての意義や目的などについて理解する。	(1) 保育における表現の意義 (2) 保育の表現による子どもの発達への影響及びその重要性 (3) DVD等の映像教材を活用した保育現場の理解
保育の表現技術 (音楽表現)	演習	<u>360分</u> (4コマ)	1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。 2. 音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。 3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。	(1) 子どもの発達と音楽表現に関する知識と技術 (2) 身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむ経験と保育の環境 (3) 子どもの経験や様々な表現活動と音楽表現とを結びつける遊びの展開
保育の表現技術 (造形表現)	演習	<u>360分</u> (4コマ)		(1) 子どもの発達と造形表現に関する知識と技術 (2) 身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験と保育の環境 (3) 子どもの経験や様々な表現活動と造形表現とを結びつける遊びの展開

科目名	区分	時間	ねらい	教育に含むべき事項
保育の表現技術 (言語表現)	演習	<u>360分</u> (4コマ)		(1) 子どもの発達と絵本、紙芝居、劇(人形劇含む)、ストーリーテリング等に関する知識と技術 (2) 子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境 (3) 子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開
保育 実践 見学実習 (事前指導)	講義	<u>60分</u>	1 保育実践 見学実習を行うに当たっての配慮事項やポイントについて理解する。 2 保育実践 見学実習でどのようなことを学びたいか、あらかじめ考える機会とする。	1 保育実践 見学実習の目的 2 保育実践 見学実習のポイントと配慮事項
保育 実践 見学実習	実習	<u>1日</u> <u>実質</u> <u>6時間</u>	1 保育所や児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解する。 2 保育士の業務内容や職業倫理について理解する。 3 保育現場における保育の表現技術の実際について理解する。	(1) 保育実践 見学実習による保育現場の理解 ・保育所や児童福祉施設の生活と一日の流れ ・子どもの観察とその記録 ・子どもへの援助やかかわり ・保育計画や子どもの発達過程に応じた保育内容 ・子どもの生活や遊びと保育環境 ・子どもの健康と安全 (2) 専門職としての保育士の役割と職業倫理 ・保育士の業務内容 ・職員間の役割分担や連携 ・保育士の役割と職業倫理

科目名	区分	時間	ねらい	教育に含むべき事項
				<p>(3)保育現場における保育の表現技術の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育における保育表現技術の実際 ・状況に応じた保育表現 <p>※ 保育実践見学実習の最後に30分程度、実習施設の保育士との質疑応答等を行う。</p> <p>※ 保育実践見学実習終了後、受講者の態度や行動等について、実習先の施設から講習実施機関に伝達する。</p> <p>※ 保育実技講習(仮称)の実施機関において、やむを得ない事情等により、保育実践見学実習を実施することが困難な場合は、保育実践見学実習に代えて、映像等を活用した演習により行うことも可能とする。ただし、この場合において、「ねらい」及び「教育に含むべき事項」の内容を網羅して実施すること。</p> <p>※ 保育実践見学実習における、児童の午睡の時間帯や保育実践見学実習終了後に、レポートを作成、提出させること。</p>

※保育実践見学実習を実施することが困難な場合においては、保育実践見学実習と事前・事後指導は1の科目として実施すること。

科目名	区分	時間	ねらい	教育に含むべき事項
保育実践見学実習 (事後指導)	演習	120分	○ 保育実践見学実習の事後指導を通して、保育実践見学実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。	○ 事後指導における保育実践見学実習の総括と課題の明確化 (1) 保育実践見学実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化

計 24時間+1日 (30時間)

※保育実践見学実習1日を6時間として算定

(2) 保育実技講習(仮称)を地域限定保育士試験の筆記試験合格後に受けることとした場合

科目名	区分	時間	ねらい	教育に含むべき事項
保育の表現技術 (音楽表現)	演習	<u>360分</u> (4コマ)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。 2. 音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。 3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの発達と音楽表現に関する知識と技術 (2) 身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむ経験と保育の環境 (3) 子どもの経験や様々な表現活動と音楽表現とを結びつける遊びの展開
保育の表現技術 (造形表現)	演習	<u>360分</u> (4コマ)		<ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの発達と造形表現に関する知識と技術 (2) 身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験と保育の環境 (3) 子どもの経験や様々な表現活動と造形表現とを結びつける遊びの展開
保育の表現技術 (言語表現)	演習	<u>360分</u> (4コマ)		<ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの発達と絵本、紙芝居、劇(人形劇含む)、ストーリーテリング等に関する知識と技術 (2) 子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境 (3) 子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開

科目名	区分	時間	ねらい	教育に含むべき事項
保育実践見学実習 (事前指導)	講義	60分	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育実践見学実習を行うに当たっての配慮事項やポイントについて理解する。 2 保育実践見学実習でどのようなことを学びたいか、あらかじめ考える機会とする。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育実践見学実習の目的 2 保育実践見学実習のポイントと配慮事項
保育実践見学実習	実習	1日 実質 6時間	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育所や児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解する。 2 保育士の業務内容や職業倫理について理解する。 3 保育現場における保育の表現技術の実際について理解する。 	<p>(1) 保育実践見学実習による保育現場の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所や児童福祉施設の生活と一日の流れ ・子どもの観察とその記録 ・子どもへの援助やかかわり ・保育計画や子どもの発達過程に応じた保育内容 ・子どもの生活や遊びと保育環境 ・子どもの健康と安全 <p>(2) 専門職としての保育士の役割と職業倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士の業務内容 ・職員間の役割分担や連携 ・保育士の役割と職業倫理 <p>(3) 保育現場における保育の表現技術の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育における保育表現技術の実際 ・状況に応じた保育表現 <p>※ 保育実践見学実習の最後に30分程度、実習施設の保育士との質疑応答等を行う。</p>

科目名	区分	時間	ねらい	教育に含むべき事項
				<p>※ 保育実践見学実習終了後、受講者の態度や行動等について、実習先の施設から講習実施機関に伝達する。</p> <p>※ 保育実技講習(仮称)の実施機関において、<u>やむを得ない事情等により、保育実践見学実習を実施することが困難な場合は、保育実践見学実習に代えて、映像等を活用した演習により行うことも可能とする。ただし、この場合において、「ねらい」及び「教育に含むべき事項」の内容を網羅して実施すること。</u></p> <p>※ 保育実践見学実習における、<u>児童の午睡の時間帯や保育現場見学実習終了後に、レポートを作成、提出させること。</u></p>
保育 実践 見学実習 (事後指導)	演習	<u>120分</u>	○ 保育実践 見学実習の事後指導を通して、 保育実践 見学実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。	○ 事後指導における 保育実践 見学実習の総括と課題の明確化 (1) 保育実践 見学実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化

※保育実践見学実習を実施することが困難な場合においては、保育実践見学実習と事前・事後指導は1の科目として実施すること。

計 21時間+1日 (27時間)

※保育実践見学実習1日を6時間として算定